第２章　緑の現況と課題

１．今治市の緑の現況

（１）緑の概況

今治市は市域の中心を来島海峡が横断し、日本有数の海岸線延長を持ち、山地、丘陵地から低地に至るまで変化に富んだ地勢となっています。

1,000m級の山々が連なる陸地部の高縄山地では、水源涵養（かんよう）機能等の高度発揮に資する森林づくりが進められており、スギ、ヒノキの植林が分布しています。一方、市街地に近い丘陵地では、かつてはアカマツ等が優占していた二次林、果樹園等が分布し、蒼社川と頓田川の下流部に広がる水田やため池等と一体となって郷土の里山景観を形成してきました。また、沿岸部では、瀬戸内海国立公園特有の白砂青松の美しい海岸景観が見られます。

島嶼部は大島、伯方島、大三島、関前諸島等の多くの有人島があります。地形の大部分は、100～150mの丘陵地であり、総体的に傾斜地が多いことから水田は少なく、二次林と果樹園が広く分布しています。

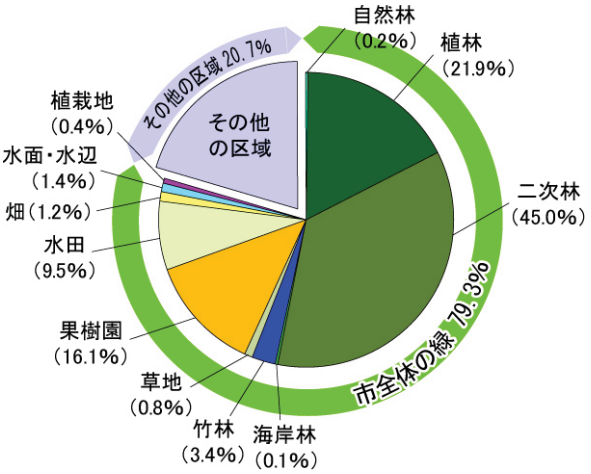
【緑の概況】

（２）緑の現況量

● 市域の約８割が緑で覆われている
● 市街化区域等に占める緑の割合は 18.8%、その約５割が水田

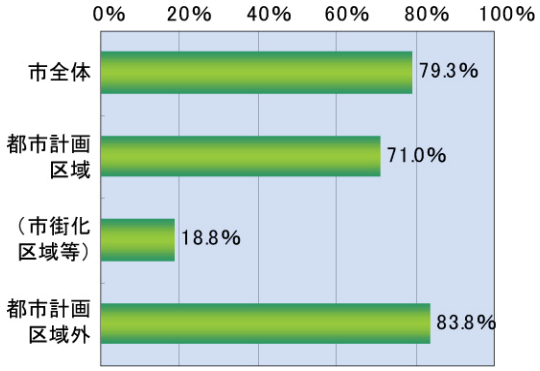
・　市域面積に占める緑の割合は 79.3%であり、その内の約７割が二次林や植林となっています。

・　都市計画区域や市街化区域等といった立地別に占める緑の割合を見ると、都市計画区域に占める緑の割合は 71.0%となっています。一方、市街化区域等に占める緑の割合は 18.8%であり、その内の約５割は水田となっています。



【市域面積に占める緑の割合】

注１：平成 19 年４月１日現在
注２：（　）内の数字（%）は構成比



【立地別の区域面積に占める緑の割合】

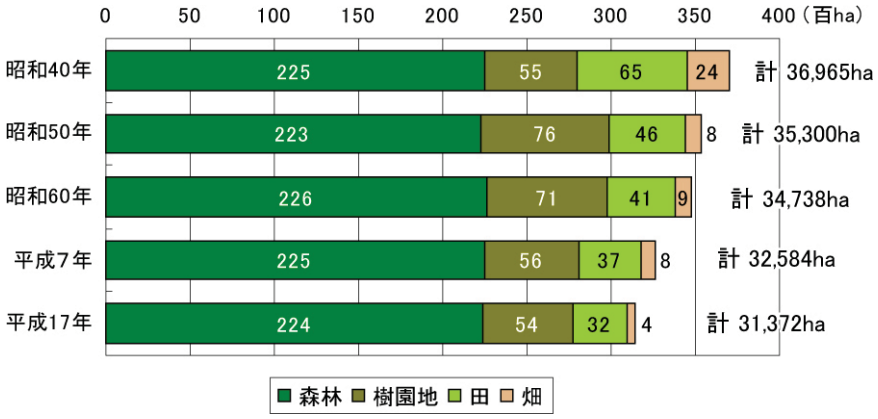
注　：平成 19 年４月１日現在

（３）緑の量の変遷

● 市街地の拡大とともに農地が減少

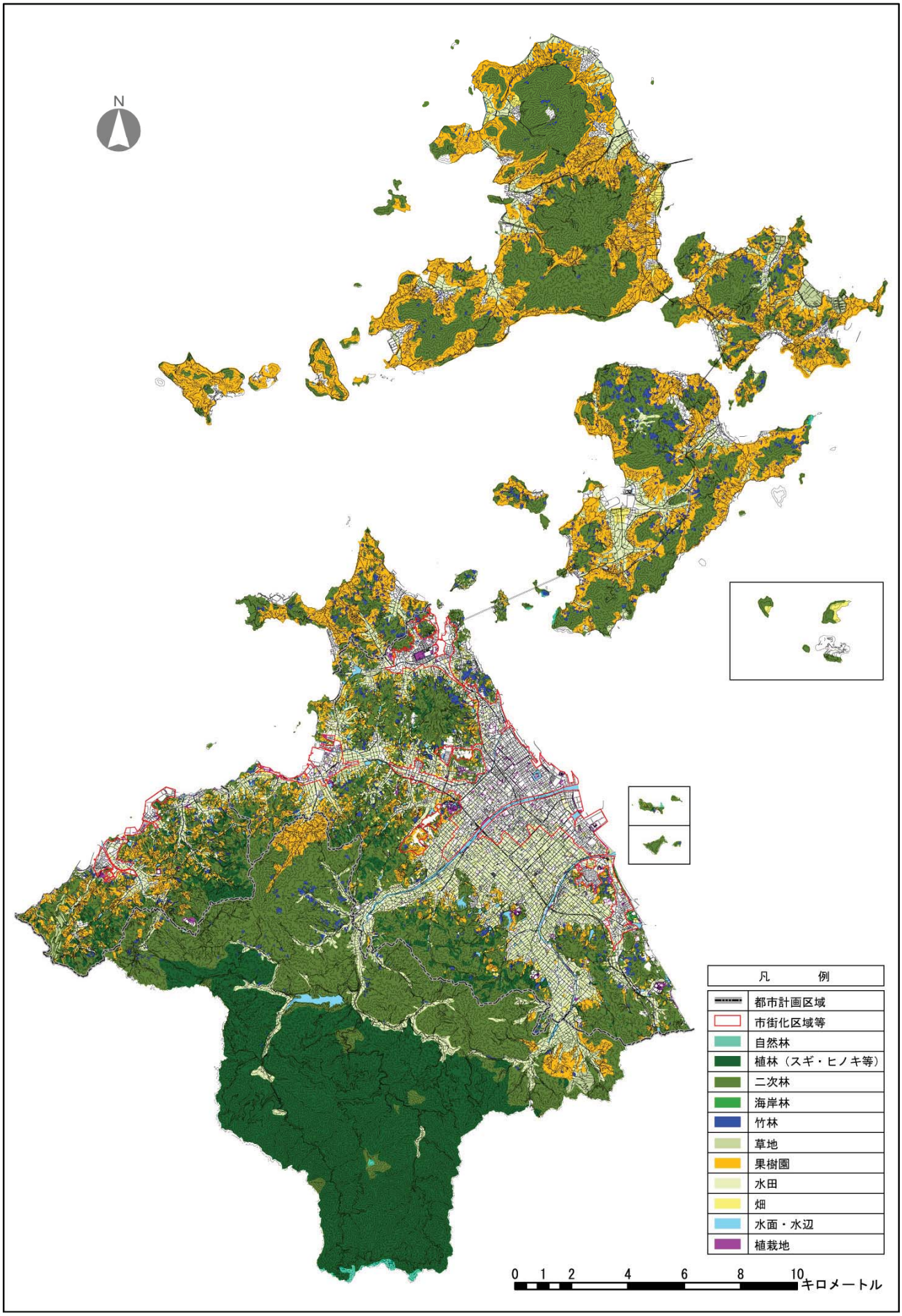
・　これまでの都市化の進展に伴い今治市の森林や農地の緑は、昭和 40 年から平成 17 年の間で約 15%、面積では 5,593ha 減少しています。

・　特に、宅地開発等の市街地の拡大に伴い農地が減少しています。



【緑の量の変遷】

資料：愛媛県林業政策課資料（森林の面積）、耕地面積調査（樹園地、田、畑の面積）
注　：樹園地、田、畑の面積については、耕地面積調査の結果が標本実測調査による推定値であり面積誤差が大きいと考えられることから、上記の「緑の現況量」と整合を図るため補正している。


N
凡　　例
都市計画区域
市街化区域等
自然林
植林（スギ・ヒノキ等）
二次林
海岸林
竹林
草地
果樹園
水田
畑
水面・水辺
植栽地
0 1 2 4 6 8 10
キロメートル

【今治市の緑の現況】

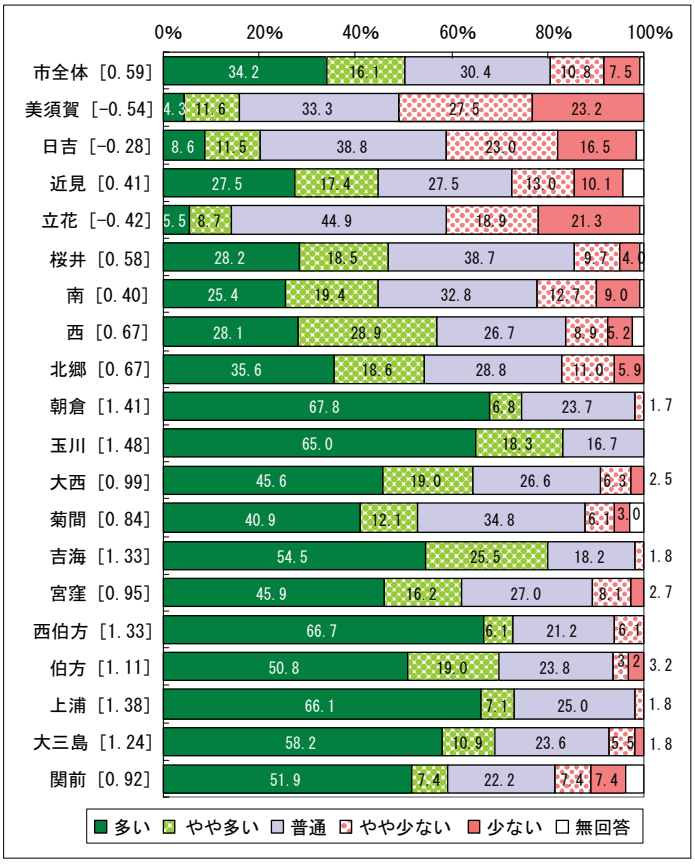
2．緑に関する市民の意識

平成 19 年 10 月にアンケート記入方式により、緑のまちづくりに関する市民意向調査（20 歳以上の市民 3,000 人を無作為抽出、有効回収率 51.0%）を実施しました。

その結果の概要は次のとおりです。

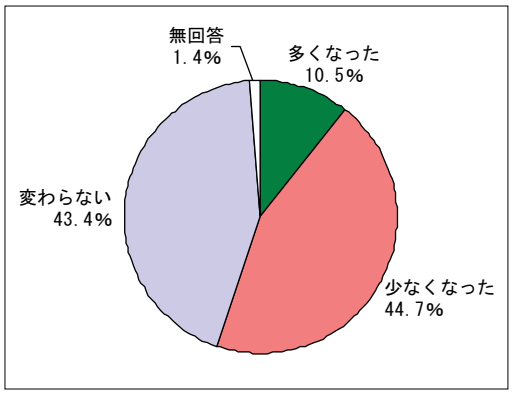
● 市中心部の緑の量と身近な公園の質に不満

問：住まい周辺の「緑」の量は多いと思いますか。

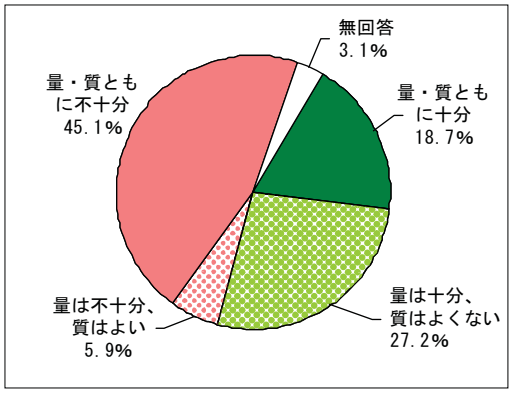


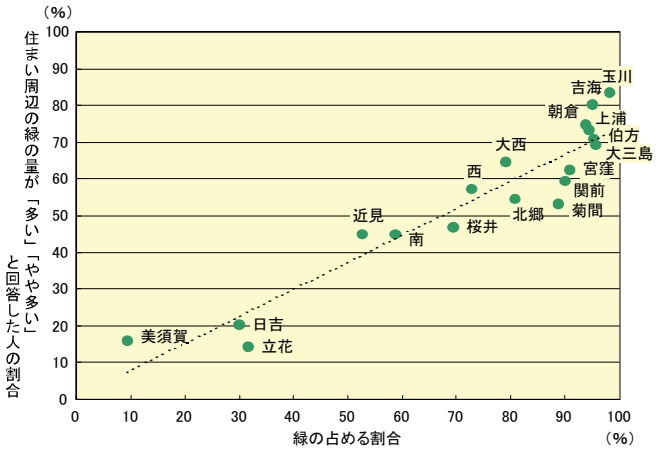
注１：[　] 内の数値は５段階評価の評価点
注２：５段階評価＝（多い×２点＋やや多い×１点＋普通×０点－やや不満×１点－不満×２点）÷（全体件数－無回答）

問：住まい周辺の「緑」の量は、住み始めた頃と比べてどのように変化しましたか。



問：住まい周辺の公園や広場ついて、どのような印象を持っていますか。

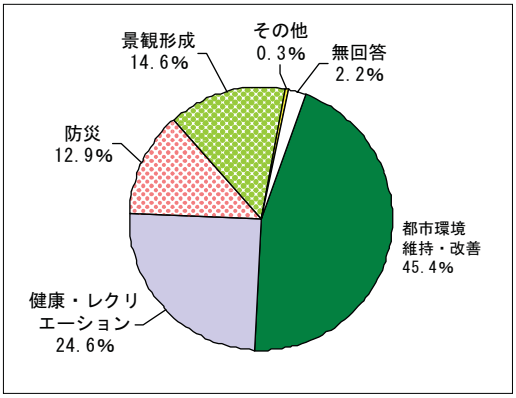




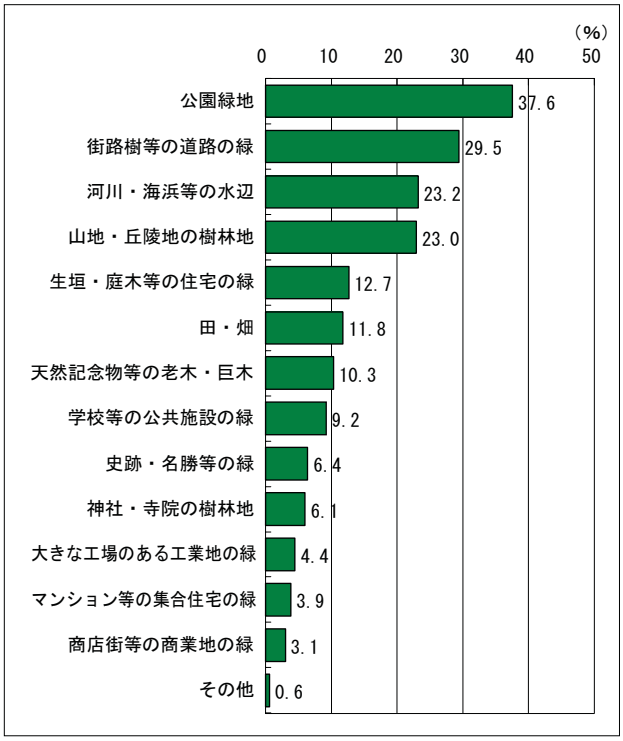
- 左のグラフは、縦軸にアンケートで住まい周辺の緑の量が「多い」「やや多い」と回答した人の合計の割合を示し、横軸には、それぞれの中学校区に占める緑の割合を示したものです。
- 市中心部に位置する美須賀、日吉、立花校区では、他の校区に比べて、特に、緑の量に満足していない方が多く、実際に緑の量が少ないことが分かります。

● 緑に期待する効果は都市環境の維持・改善、健康・レクリエーション
● 守りたい・増やしたい緑は公園緑地と街路樹、河川・海浜や森林

問：緑の主な機能のうち、特にあなたが緑に期待する効果は何ですか。

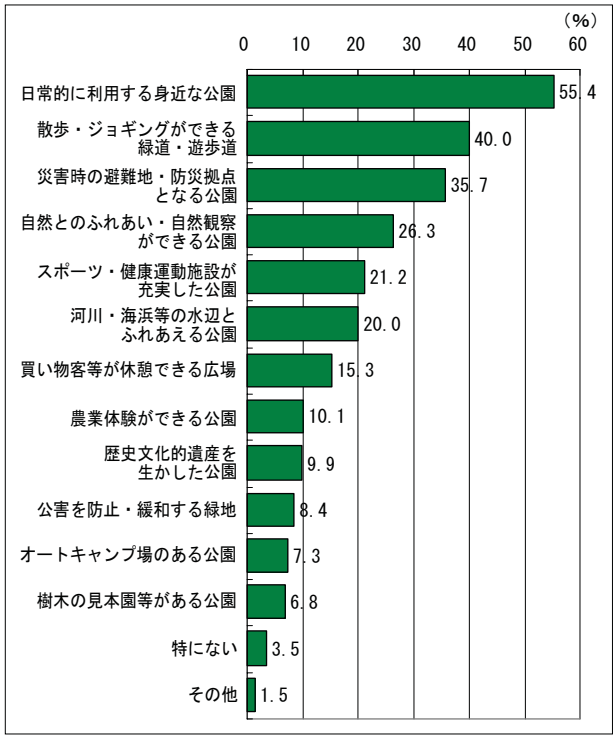


問：あなたが思う、守りたい・増やしたい「緑」は何ですか。

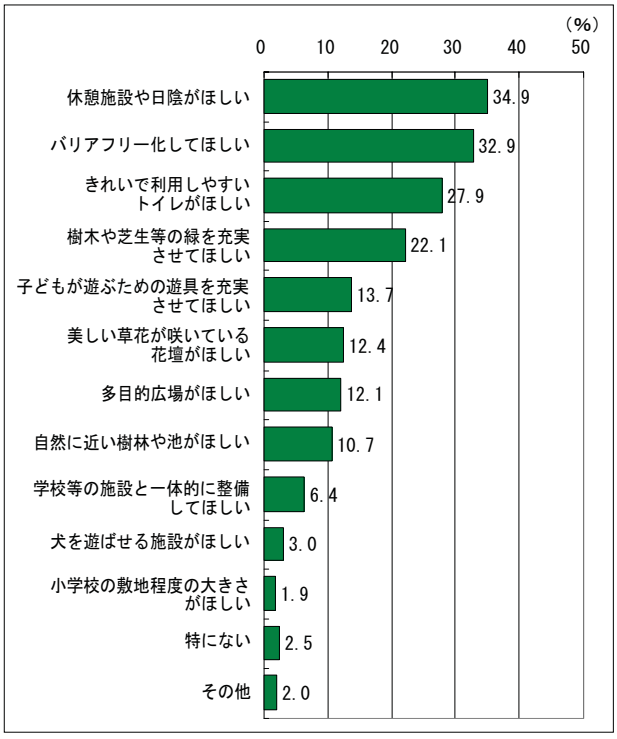


● 増やしてほしい公園は、世代を越えて身近な公園に高いニーズ

問：今後、増やしてほしい公園は、どのような公園ですか。

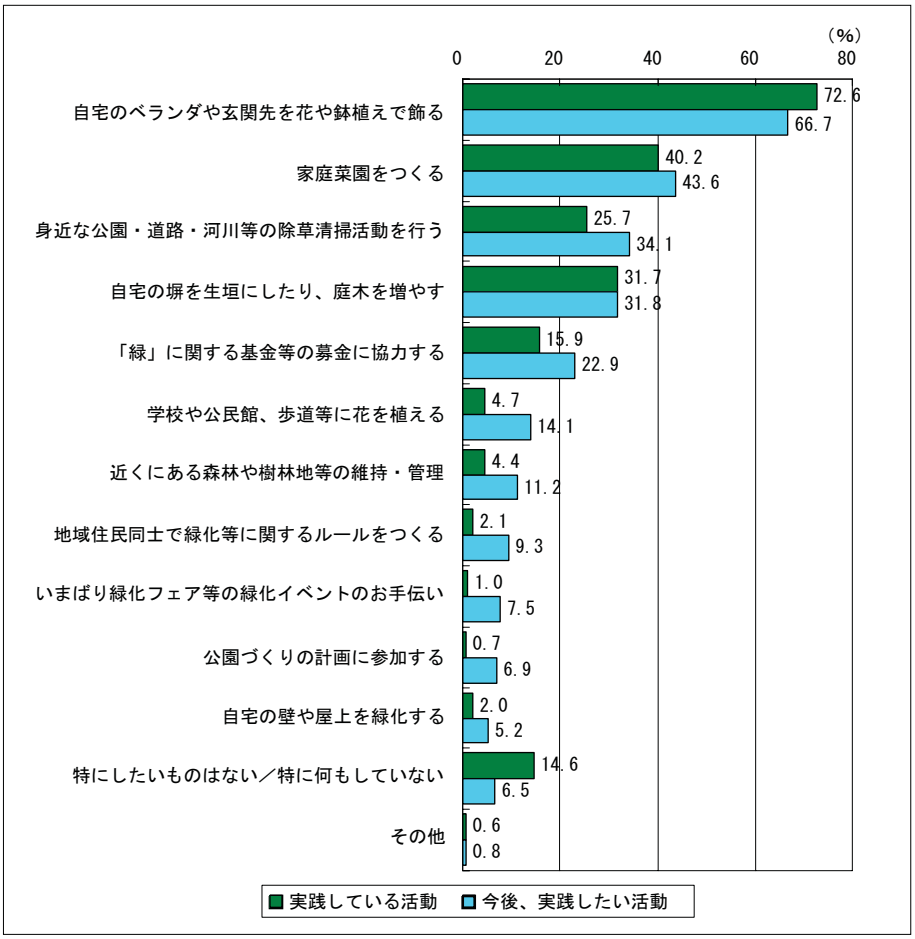


問：日常的に利用する身近な公園を整備する時に、特に重要視する事項は何ですか。



● 個人レベルの活動から地域ぐるみの活動への参加意欲が増加

問：「緑」を守り、増やすために今後、あなたが実践したい活動は何ですか。（現在、実践している活動も含む。）



３．緑の課題

（１）今治市の状況

①　社会状況の変化

・　市町村合併により今治市は、市域の真ん中を来島海峡が横断し、その海峡を囲むように市街地から郊外・内陸の農業地帯、瀬戸内の島々まで、多種多様な地域を併せ持つという特性を有しています。

・　瀬戸内海の風光明媚な景観と、大山祇神社や水軍城跡等の歴史遺産、瀬戸内しまなみ海道等の観光資源に恵まれているほか、大型船の生産実績が国内の４分の１を占めるなど、造船・海運都市としても将来が期待されています。

・　人口は減少傾向が続いています。平成 17 年の人口は **173,983 人**で、昭和 60 年から平成 17 年の 20 年間で **13.7%**、**約 2.4 万人**減少しています。

・　高齢化が進展しています。平成 17 年の高齢化率は **25.5%**で、全国平均 20.1%と愛媛県平均 24.0%をそれぞれ 5.4 ポイント、1.5 ポイント上回っています。

・　南海地震等の大規模地震発生の切迫性が高まっています。

・　財政制約等から社会資本の整備における選択と集中、多様な主体による整備・保全・管理の協働が求められています。

②　まちづくりの方向

平成 18 年 12 月に策定した「今治市総合計画」では、新しい今治市の将来像を掲げ、今後の施策の展開方向等を示しています。

■　今治市総合計画（平成 18 年 12 月）

●　市の課題

１）人口の減少と人口構造の少子高齢化の進展に伴う活力の減少と行政経費の増大
２）基幹産業及び農林水産業の振興
３）中心市街地の活性化
４）新都市整備の適正な推進
５）財政構造の硬直化と行財政運営のひっ迫化　など

●　将来像

「ゆとり彩りものづくり　みんなで奏でる　海響都市　いまばり」

●　施策の展開方向

１）産業振興と交流が響き合う海の都のまちづくり
２）次代を担う人材育成を行い自己実現が可能なまちづくり
３）地域特性を活かしてみんなで創る多彩で魅力的なまちづくり

●　将来人口

将来の人口見通しは平成 27 年で **16 万人**（高齢化率は**約 33%**）

（２）緑の課題

- 「暮らし」「環境」「活力」「安全」の視点から、今治市のまちづくりの方向や緑の役割等を踏まえ、緑のまちづくりの課題をまとめています。

- 課題解決に向けた施策の展開に当たっては、特に、市民に身近な「暮らし」「環境」の視点を重要視します。そのため本計画では、これらの視点から重点目標を設定し、その目標の達成に向けて優先的に実施または検討する施策を示します。

暮らし

- 若い世代が暮らしやすいまちづくり、コンパクトで効率的な質の高いまちづくり

課題① 良好な子育て環境や高齢者の憩いの場となる身近な公園の整備

- 市民意向調査から、身近な公園の整備・充実を市民が強く望んでいます。
- 特に、質に対する不満が大きく、整備されてから時間が経過した公園では、施設の老朽化や樹木・雑草の繁茂のほか、子どもが安全で安心して遊べる遊び場の不足、高齢化に伴う利用者の変化など、利用者ニーズと合っていない状況が見られます。
- その一方で、都市公園整備の進展に伴う維持管理費や老朽化した施設の再整備の必要性も増加しています。

課題② 公園管理等における市民との協働の仕組みの構築

- 都市公園整備の進展に伴う管理面積の拡大だけでなく、市民ニーズの多様化や管理の複雑化など、厳しい財政状況の下で公園の維持管理費は増加の傾向にあります。
- その一方で、市民意向調査では、市民の地域ぐるみでの緑づくりの活動への参加意欲は高まりを見せています。
- 市民参加による公園管理等の活動は、単に公園管理の効率化のみならず、活動を通したコミュニティの醸成や活性化、生きがいづくり等にもつながるものです。

課題③ 住宅地や中心市街地における緑による景観向上

- 今治市では郊外部に比べ市街地内の緑が不足しており、まとまりのある民有地の緑は少ない状況です。
- ゆとりのある戸建て住宅地では、地区全体として比較的緑の多い地区が見られますが、ブロック塀の住宅も多く、さらに緑化の余地があると考えられます。
- 緑の不足している中心市街地では、緑化の面から生活環境や都市景観の向上を図る必要がありますが、建築物の敷地に緑化するためのスペースが少ない状況にあります。

環　境

● 身近な環境問題に取り組むまちづくり、市町村合併により森林面積は大幅に拡大

課題④　市民の環境保全や緑化意識の高揚

・　市民との協働による緑のまちづくりを進めるに当たっての基本的な課題は、市民一人ひとりの環境保全や緑化意識を高めることです。
・　また、市民意向調査では公園や街路樹の現状について、ごみや犬のフンなど利用者のマナーの問題を指摘する声も多く、このことは、既存の公園に対する不満の原因の１つであるとも考えられます。

課題⑤　水源の森や市街地に近接した樹林地の保全・管理

・　市民意向調査から、森林等の樹林地の保全に対する関心が高いことが分かりますが、開発抑制としての保全については、都市計画法及び他法令による土地利用規制により、おおむね担保できる状況になっています。
・　その一方で、温暖寡雨である今治市においては、水源林としての森林の機能保全が重要です。また、少子高齢化の進展等により放置された森林や竹林の増加、松枯れの急激な進行など、森林の荒廃が問題点としてあげられます。

活　力

● “海のまち”の歴史文化を生かしたまちづくり、「海響都市 いまばり」の実現

課題⑥　中心市街地、今治新都市における魅力ある緑づくり

・　中心市街地及び今治新都市は、「今治市都市計画マスタープラン」において、都市機能の集積を図る今治市の都市構造上、枢要な区域となっています。

課題⑦　しまなみ景観や多彩な自然・歴史を生かした観光・交流を誘発する緑づくり

・　今治市には能島城跡や今治城跡等の史跡、波止浜や八幡山等の名勝、大山祇神社のクスノキ群や医王池の湿地植物等の天然記念物といった指定文化財のほか、四国霊場とへんろ道など数多くの歴史的資源が存在しています。
・　また、燧灘沿岸の海岸松林は、「日本の渚 100 選」や「日本の白砂青松 100 選」に選ばれている美しい砂浜海岸を構成しています。これらの緑は、多くの先人の努力によって造成されてきた樹林地であり、今治市の貴重な自然的・文化的資源となっています。

安　全

●　地震防災対策の充実、安全・安心に暮らせるまちづくり

課題⑧　災害時の避難場所や防災活動拠点、復旧復興拠点等となる公園等の確保

・　近年、日本全国で災害が頻発しており、安全・安心に対する市民の意識は高く、市民意向調査では、災害時の避難地・防災拠点となる公園の整備・充実が望まれています。

・　愛媛県の被害想定によると今治市では、中央構造線による地震と南海地震により大きな被害が生じると予測されています。

・　特に、南海地震等の大規模地震発生の切迫性が高まっています。